

## 平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	光合成電子伝達系のダイナミクス：未知のネットワークの解明	研究代表者名	鹿内 利治
-------	------------------------------	--------	-------

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

### 1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(○) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：

世界をリードしており、引き続き PGR5 発見の成果を発展させて、光化学系サイクリック電子伝達系の実体を解明することを期待する。

### 2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ(○) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：

概ね予定どおりに進展しており、苦労している部分に対しては適切な対応が取られている。今後、当初目標に一層集中して研究の進展をはかることを期待する。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：

### 3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ(○) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：

PGR5 の局在の解明など、サイクリック電子伝達系の全貌解明に向けた研究の中間点として、概ね期待された成果をあげている。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア (○) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
分子遺伝学者と生化学者の良い連携が成果を挙げている。適時、生物物理的測定の専門家が加わると一層強力になるだろう。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア (○) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

#### 総合的な評価意見：

今後の光合成研究に必須の重要課題であるサイクリック電子伝達系の実体解明に向けて、興味深い成果を着実にあげて前進しており、銅イオンによる制御系という新しい視点での研究成果も得られている。本来の目標の重要性からみて、新たに導入された課題については全体のバランスの中で研究テーマが分散しないように注意し、サイクリック電子伝達系の実体解明に努力を集中して、大きな成果をあげることを期待する。